

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)

【公開番号】特開 2001-11436 (P2001-11436A)  
 【公開日】平成 13 年 1 月 16 日 (2001.1.16)  
 【出願番号】特願 平 11-186725  
 【国際特許分類第 7 版】

C 0 9 K 11/06

H 0 5 B 33/14

【F I】

C 0 9 K 11/06 6 4 5

H 0 5 B 33/14 B

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 7 月 27 日 (2004.7.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

ところが、従来知られるドーブ色素は、青色～黄色の色素が多い。特に赤色の発光層材料としては、上記の D C M 誘導体、ナイルレッド ( S c i e n c e , 2 6 7 , 1 3 3 2 ( 1 9 9 5 ) )、ペリレン誘導体 ( A p p l . P h y s . L e t t . , 6 4 , 1 8 7 ( 1 9 9 3 ) )、ユーロピウム錯体 ( C h e m . L e t t . , 1 2 6 7 ( 1 9 9 1 ) ) などがあるものの、発光効率、長期の安定性の面で必ずしも満足できるものではなく、発光効率に優れるとともに寿命に優れた赤色発光材料の開発が望まれている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 4】

次いで A l q ( 式 ( 3 ) ) と下記式 ( 1 6 ) の化合物 (  $p_3 > 0$ 、 $p_7 > 0$ 、式 ( 1 ) の化合物の R<sup>5</sup> と R<sup>6</sup> が結合して、母体骨格の炭素原子とともに芳香族環を形成。) とを異なるボートを用いて膜厚 6 0 n m に共蒸着して発光層 3 を形成した。このときの式 ( 1 6 ) のキナクリドン系化合物の濃度は 1 . 4 モル % であった。次に、フッ化リチウムを 0 . 5 n m 蒸着して界面層 8 を形成した。最後に、A l を膜厚 2 0 0 n m に蒸着して陰極 5 を形成して有機 E L 素子を作製した。